

三文文誌、新入生歓迎号2023の表紙を担当しました、shushuと申します。

ええ、表紙があるのだから、三文文士会には、表紙を描く人がいるのです。著作権だってあるのです。

一生懸命なにかを考えて、描いている人がいるのです。

でもここは文芸サークルですから、あんまり絵の話を強要するのは無粋かと。

でもやっぱり何か思ってくれるなら、それほどうれしいことはありません。

ですから私も何か載せてみます。一応、私も三文文士です。

それも、ただ載せてもしかたないので、こうして表紙に寄せて。

表紙に寄せて

shushu

ふれる

伊織 カナエ

世界ってなんのことをいうのだろう

あの一とがいていたみたいに、自分以外のものって、
そういつてみてもいいのかもしれない

いつもは降りない駅のまわりを歩いてみたときの明かりとか

朝、玄関から外に出た時の空気が、ちよつと水を含んできたときのあのかんじとか

近所でふとかおる金木犀とか

だれかについていった先の、思わぬ人との出会いとか
きつと自分のしらないところでこの世界ってまわって
るんだって、そういう実感がある

そういう、自分のところにまわってきたものたちのこ
とを、わたしは縁とよんでいるのだけれど

それって、自分のところにまわってこなかったら？

わたしはずつと、何も知らないまま

いろんなものが、すぎてゆく

ときどきわたしはこの寝室の中で、カーテンを閉め切
つて、通知もきつて、ずつと布団にくるまって、気がつ
いたらこの世界から消えていて。そんな妄想をする

だれにも気づかれないまま、この部屋のとびらはもっ
二度と開くことはない

そのそとにいるだれかは、ほんとうに「だれか」なの？

もしかしたら、この部屋の外には暗闇がひろがってい
て、ほんとうはだれもいないし、なにもないのかもしれ
ない

救急車のサイレンとか、なにもかも混ざった振動とか
も

ほんとは耳鳴りとかそういうもので

かべにかかつて時間を刻む時計だつて

あんがいわたしが律儀に数えているのかもしれないし

でもそのうちわたしはとびらを開いて、洗面台の蛇口
で顔を洗って、キッチンで水を汲んでのむ

液体が胃でバウンドする

不意に絵を描いたり、あの人に連絡を取ってみたい

そうして玄関を開けると、はたしてわたしの住所はこ
こでしたよ、と

ただいま世界。おかえりわたし

わたしがいないあいだ、元気にやってたかい

そうかい、そんな気はしてたけど、それは災難だつた
ね

こんどはわたしが今日みた夢の話なんだけど、きいて
くれる？

わたしが認知する世界と、わたしを認知しない世界と

わたしと世界、世界にわたし、わたしの世界

もしもし、あなたのみる、あなたのいるせかいのなか
に、はたやわたしはおりますか

もしもし、あなたにふれてもいいですか